

日 時：令和2年1月16日（木）18時30分～20時00分

場 所：さるか交流館

対象地区：猿賀

出席人数：33名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○猿賀消防屯所について</p> <p>（市民から）</p> <p>猿賀消防屯所について、昭和53年の建築から耐震化といった動きがないが、どのような計画となっているものか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">令和9年度までの屯所更新計画には位置付けられていないが、耐震基準を満たしていない古い建物であることを踏まえ、今後、消防審議会での審議を経て、計画的な更新を検討していく。なお、建物に不具合がある場合は、平成29年度に実施したシャッター修繕工事のように、緊急対応していくこととなる。
<p>○上猿賀機械置場（消防団施設）にある土のうについて</p> <p>（市民から）</p> <p>上猿賀機械置場にある土のうは、今後どのように活用すればよいか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">自主防災組織を主体とした水害時の応急体制を拡充するため、平成26年度に地区集会所を中心に土のうを配備した経緯がある。その他、市でも備蓄しており、上猿賀機械置場は市の備蓄分に当たるが、緊急時には自主防災組織や消防団の自主判断で活用していただくことも想定している。
<p>○老木へ対応について</p> <p>（市民から）</p> <p>県道沿いの西光庵の墓に立っている大きな木があるが、昨年10月ごろより蜂の巣がつきはじめ、至る所に穴があいている状態となった。業者に依頼し、2回ほど駆除してもらったが巣はそのままとなっている。今後また蜂が発生する恐れがあり、木自体も相当年数が経っているため、樹木鑑定等を行いたいと考えているが、そのような専門家は紹介してもらえるものか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">状況を確認のうえ、業者や専門家等を紹介したいと思う。

○ねぶた更新に対する市の助成について

(市民から)

ねぶた本体の更新に対する市の助成等はないものか。

(市から)

- ・ねぶたへの助成は、運行補助のみであり本体への助成は行っていない。
- ・中山間地域では伝統芸能の継承事業として中山間直接支払交付金を充てている例もある。猿賀地区では多面的機能直接支払交付金があり、令和元年度から伝統芸能も部分的に事業対象とはなったが、ねぶた本体は対象外のようなようである。

○多面的機能直接支払交付金の活用について

(市民から)

多面的機能直接支払交付金を夏祭りなどコミュニティ活動にも使えるなど、柔軟に活用できるように用途に幅を持たせることはできないものか。

(市から)

- ・趣旨が異なるため、そのような事業に充てることはできない。コミュニティ育成奨励金を活用していただきたい。
- ・多面的機能直接支払交付金は用途が限定されているが、コミュニティ関連にも使えるものかどうかは、今後検討していきたい。コミュニティ育成奨励金については、自分たちの地域は自分たちで作るといった趣旨において、今後も継続していきたい。
- ・平賀地域の松崎学区では町会を超えた地域運営組織を設立しており、高齢化による役員など担い手不足への対応のため、複数町会が集まって一つのコミュニティ組織を作っている。平賀東部地区でも同様の動きが検討されており、今後は、地域の实情に合ったコミュニティのあり方を選択していく時代になっていくとも思っている。

○花壇整備によるイメージアップについて

(市民から)

多面的機能直接支払交付金を活用し、各地区で花壇を整備しているが、それぞれで行っているため、小規模かつ分散されている印象がある。アイデアとして、例えば市の入り口のバイパス沿いに、まとまって行うようにすれば、景観的にもインパクトが出て、市のイメージアップにもつながると思うが、そのような取組みは行えないものか。

(市から)

- ・交付金による花壇整備は、各団体が予算の範囲内で限りある場所を活用し行っているため、ご指摘のとおり、各地区に小規模の花壇が分散しているが現状である。他地区においても、猿賀地区のように広域農道沿いに大きくインパクトが出るように整備できるのが理想だが、各地区の判断によるため、市からお願いするのは難しい。

・市としてインパクトのある花壇を整備し、イメージアップを図ることは素晴らしい取り組みであるが、市有地や空地があるかどうかにもよるため、ご提案を踏まえ今後検討してみたい。

○花壇整備の今後について

(市民から)

老人クラブでも代々、市有地に花を植え、管理をしているが、高齢化のため年々参加者が減ってきている。管理する人がなくなった場合、この花壇はどうになってしまうのか。

(市から)

・美化活動の理念から、町会で自主的に行っているとても良い取り組みではあるが高齢化で管理できなくなった場合は、止めざるを得ない。その場合は、市有地のため、市が草取りを行うなど管理していくことになる。

○新体育館のオープンについて

(市民から)

新体育館ではどのようなオープニング行事を予定しているものか。また、一般の開放はいつからとなるのか。

(市から)

・一般開放は4月1日を予定しており、料金設定などは、議会での議決を経てから周知する形となる。また、落成式は3月28日午前、内覧会は29日終日を予定している。落成式には様々なアトラクションを用意しており、皆様に期待していただける内容となるよう準備を進めている。

・具体的には、落成式では記念イベントとして、青森大学の新体操や市内の子どもによる一輪車チームのアトラクションなどを予定している。2階の観覧席は1千100席ほど設けており、1階もアトラクション部分以外の場所では観覧できるため、多くの方に来ていただきたいと考えている。

○猿賀神社周辺の整備について

(市民から)

猿賀神社周辺の整備計画に、冬期間使われていない遊具がある公園のトイレの改修などは含まれているものか。

(市から)

・現在ふるさとセンターの大規模改修を行っており、一階部分には観光協会が入る予定となっている。なお、遊具がある公園のトイレは今後撤去し、ふるさとセンター側に冬期間も使えるトイレを新たに設置する方向で進めている。

○電柱の移設について

(市民から)

電柱周りに除雪の雪が残ることで道路が狭くなり、事故につながりかねない箇所がある(さるか交流館から県道に出てすぐ左側のカーブ付近)。この電柱を移設できないものか。

(市から)

- ・電柱の移設に関しては、NTTとの協議や移設先の問題もあるため、担当部局で検討していきたい。

○路面の改善、道路拡幅、歩道整備について

(市民から)

昨年の12月24日、小和森地区から荒田地区にかけての県道で、同じ箇所ですら2台が歩道側に乗り上げる事案があったが、この主な要因は、雪による轍ではなく、道路本来の轍だと思っている。その翌日も、福家から新屋町地区方面に向かう道路や新しいカントリー方面の広域農道でも車が落ちるなど、道路本来の損傷に気象条件等が重なって起きる事故が多発しているため、しっかりとした道路整備をお願いしたい。

また、猿賀神社から福家までの道路は狭く交通量が多い。神社の門前にある電柱には車が擦った跡があり、その向かい側の停止標識は車の接触により傾いているため、道路を拡幅できないものか。

併せて、新屋町地区から柏農高校前駅までの道路は狭く歩道もないため、歩道整備をお願いしたい。

(市から)

- ・ご指摘の事故については、道路本来の轍が原因かどうかは検証が必要である。道路拡幅や歩道整備の件も含め担当課には伝えるが、進め方としては、町会要望の中から緊急度に応じて優先順位をつけ、計画的に整備をしているところであり、今後は町会長を通し町会要望としてまとめていただくようお願いしたい。

○日中の緊急除雪について

(市民から)

昨年12月27日の日中は、大雪のため路面状況が悪くまともに運転できない状況だった。通常、道路除雪は夜中だと思うが、状況に応じ、日中に除雪してもらえないものか。

(市から)

- ・除雪は原則、夜中に10センチ以上の降雪が予想される場合に出動しており、日中の場合はオペレーターの確保など対応が困難な状況も想定されるが、検討していきたい。

○遮断機幅の拡幅について

(市民から)

尾上原地区及び福家前の踏切は狭く、道路側に遮断機の本体がはみ出ている。その影響で、双方通行が難しい状態となっているため、改善をお願いしたい。

(市から)

・弘南鉄道に対し、遮断機の幅を広げることについて要望したい。

○町会要望の未着手事業について

(市民から)

猿賀小学校入り口から福井商店までの道路区間は、歩道がなく、舗装もされていないため、雨が降った場合は特に状態が悪くなり歩きづらい。地権者の了解も得ていることから、優先的に歩道を整備していただきたい。歩道整備が不可能な場合は、砂利敷きや舗装だけでも行っていただきたい。

また、ロマン館の前など、全般に横断歩道が消えかかっており、猿賀小学校でも問題視されている。警察にも相談したところだが、進んでいないため市からも再度要望を行っていただきたい。

(市から)

・猿賀小学校周辺の歩道整備は、八幡崎町会からの歩道設置の要望と一体的に県に要望しているが、なかなか着手されていないのが実情である。消えかかっている横断歩道も含め、今後も粘り強く県に要望をしていきたい。

○緊急時の公共交通について

(市民から)

年末の大雪で弘南鉄道が運行休止となったことで、弘前市から猿賀地区までバスで帰った人がいるが、バス停から自宅まで1時間近く歩いて帰ったそうである。緊急時の公共交通として、コミュニティバスの新たな路線を検討するなど、新たな対策を講じるべきはないか。

(市から)

・コミュニティバスなど、高齢化社会の中での公共交通に関しては、様々なご意見をいただきながら、新庁舎の完成までに決定していきたいと考えている。なお、平賀東部地区では、地域運営組織による運営やワゴンタイプのタクシーの活用も検討しているところであり、結論が出るまでもう少しお待ちいただきたい。

○災害弱者の避難対応について

(市民から)

防災無線は、台風などの災害時は屋内では雨音などで聞こえないので、特に災害弱者への踏み込んだ対策を講じてほしい。

(市から)

- ・昨年3月に国の避難行動に関するガイドラインが見直しされ、自治体は、躊躇なく避難情報を発令する方針になった。これを受け、これまで早い段階から健康センターや尾上地域福祉センターなど3か所に自主避難所を開設してきたものを、今年度からは緊急避難体制を万全にするため、自主避難所については、自主防災組織にお願いする形に方針を変更した。これにより、大雨警報が発表されるなど一定の危険性に達した場合は、市の主導のもと、小学校に緊急避難場所を開設したり、弱者対策では避難支援関係者が声がけを行うなど、緊急避難を促していく形となる。
- ・このような自主防災組織との役割分担について、各町会長と意識の共有ができないまま、昨年の台風対応となったため、2月の行政委員研修会時にはこの新たな避難対応の考え方について、説明させていただく予定としている。
- ・昨年の台風19号で大きな被害のあった宮城県丸森町では、避難を呼びかけても、これまで災害がなかったとの過信から避難しなかった住民が多数いたとのことである。市民の皆様には、実際に避難行動をとってもらうことが重要なため、隣近所で声を掛け合うなど緊急避難への意識づけをお願いしたい。

○児童生徒への避難行動の啓発について

(市民から)

児童生徒に対し、通学時等における地震やミサイル事案発生時の避難行動について、広報紙等で年度当初に周知するとともに、学校側からも指導を徹底するようお願いしたい。

(市から)

- ・子どもの避難対策については、防災担当と学校側で啓発方法などを協議しながら進めていきたい。